

炭焼き 坂本 幸三

本日午前中の炭焼き作業は参加者 13 名で 1 炭出し作業〜 2 炭のカット作業(一般向け約 10cm 位に)〜 3 計量・仕上げまでの作業を各分担して行いました。今回は 26 袋(260kg)の炭が出来ました。質・量共全体的にいつもと変わらず良好な状態で仕上がっているようでした。皆さん手慣れた方が多く 各持ち場間の連携もよく、昼の総会を控え早めの時間終了できました。午後からの作業は 2 班に分かれて 1 炭材の立て込み作業=約 1 トン近くの炭材を置き場から窯入口まで運び 窯内にすき間なく詰め込む大切な作業です。最後に窯入口を密閉して終了。2 別作業では次回の炭材作り=今回は太めの炭材を薪割機で 2〜4 分割し炭材に適した太さに調整、暫く乾燥させて次回に備える等の作業を行いました。途中研修中の方達他多数の応援もあって大変助かりました。午後は日差しもあり暑さも感じられましたが無事終了です。次回も良い炭が出来ますように。皆さんお疲れ様でした。



ロゴソール付近の草刈り 楠正暢



前回の作業日誌の作成をサボってしまったため、遑って 5 月分も記します。先月はロゴソールでの板材作製を予定していましたが、チェーンソーのエンジンをかけ、木材の長さの 1/4 程度まで切ったところで、「パン！」と音がして止まってしまいました。その後スターターロープを引いてもスカスカで、圧縮する手応えがなく、修理業者への持ち込みが必要となりました。業者への対応を下さった H さん曰く、エンジンのピストン部の劣化が原因で、装置が古く部品が入手できないとのことで、新しいチェーンソーを購入することになったそうです。商品は 1 週間ほど前に届いたようですが、ロゴソールのレールに対してチェーンソーを平行にスライドさせるための治具への取り付け部の寸法が合わず、その調整用パーツの取り寄せが必要とのことで、定例活動日の本日に間に合わなかったという状況でした。

そこで今回はロゴソールの作業場周辺の草刈りをすることになりました。8名で草刈機作業者と手鎌作業者に分かれ、炭焼き小屋につながる通路までを除草しました。本日は年に一度の総会の日であるとのことで、午前中までで作業は終了しました。

ウルシ谷整備 山口 俣

雨もがり良いお天気の中でウルシ谷へは 8 人が参加です。3 人はよく茂ってる草を刈りました。草刈りは秋まで続きます。5 人はウメとキンモクセイの剪定をしました。その後、溝川の草刈りをしましたが、昨年設置した竹の柵の効果は抜群でイノシシに荒らされることもなく溝川自体はきれいです。でも、草は盛大に茂っているので 5 人で川に入り鎌と手で長く伸びた草を取り除きました。お昼までに短い時間でしたがずいぶんきれいになりました。みなさんご苦労さまでした。

ウルシ谷は昨年暮れ頃からナンテンとアオキの赤い果実が目立ってとてもきれいでしたが、今はナンテンに白い花が咲いています。クリも白い花を付けています。秋が楽しみです。



里山整備 山名 竜椰

この日は5人で沢小屋近くの谷にある以前切り倒していた木の運び出しを林内作業車でしました！一人一人が役割を探し、林内作業車を動かす人、木を運び出せるように調整しに行く人、などなど、みなさん生き生きと活動されていました！最後に、高くそびえ立った木を狙い通りの方向へ切り倒しました！谷が整備され、綺麗になっていってます！



新規倶楽部員研修 西田 之伸

第3回新人研修会

作業内容

- ・鎌による草刈り体験、げんきの森入り口近くの植林地、苗周りの草刈り
- ・鎌の研ぎ方と実習
- ・炭焼き窯お手伝い

草刈りはなかなかの急斜面で、注意しないと滑り落ちそうになる。

草が生い茂っていて目印を探すのが一苦労。一緒に苗木を切ってしまうように気をつける。

下界と違って風が心地よい。

砥石を使って鎌を研ぐ。荒目の砥石は意外と削れる。細目砥石で整え、さて切れ味はいかに。

午後から炭焼き窯お手伝い、自分は薪割り手伝い。油圧機械で長尺丸太を割っていくのがおもしろい。

斧で薪割りも機会があればやってみたい。

薪の窯入れ、ブロックを積み土を練って蓋をする工程を見学。

そのあとは、木材伐採の見学。

みなさん楽しそうです。

今度は自分も伐採作業のお手伝いしたいものです。

日曜日は、ちょうどまい具合にカラッとした梅雨の晴れ間。

みなさん普段の行い良いんでしょうね。



「サトタマゴタケ」

聞きなれない名前ですが、げんきの森にたくさん生えてくるタマゴタケの正式名称です。

一昨年まではタマゴタケでよかったのですが、2年前にタマゴタケをタマゴタケとサトタマゴタケに分ける論文が出て、げんきの森のような低い山に生えてくるタマゴタケはサトタマゴタケに分類されたそうです。

見かけではほとんどわからなくて、遺伝子を調べないと正確には区分できないそうなので私たちには特に関係ない話だと思うのですが、タマゴタケは日本で一番人気があるといってもいいほどのキノコなのでこれに新種が発表されたということはかなりのトピックスですよ。

高野山とか護摩壇山に生えるタマゴタケはどちらなのか気になるそうです。

いろんなネットの書き込みを読めると、サトタマゴタケの方が色の濃い個体が多いとか、柄の赤と黄色のまだら模様が濃いか、味は高い山に生えるタマゴタケの方がいいとかいろいろな感想が出ています。

山東さんによると、サトタマゴタケの論文を読めると和歌山県から取り寄せられたサンプルの採取地が「KONRAISAN」となっているそうです。

「KONRAISAN?」、「こんらいさん?」、「根来山?」

ねごろやまの呼び名はまだメジャーではないようです。

岡田 和久

